

「新疆における中国共産党の国家建設：1949－1954年の軍事的側面を中心に」

田中周（東京大学先端科学技術研究センター・特任研究員）

1：はじめに

1-1：問題関心・目的・特色

－新疆独自の存在：「東トルキスタン共和国」と「新疆生産建設兵団」

1-2：歴史的背景と三区革命

－20世紀前半の新疆略史、三区革命とは

2：新疆「和平」解放

2-1：4つのアクターと推進力

－中国共産党、三区、国民党、ソ連の政治目的・軍事行動

－キーパーソン：〈中国共産党〉鄧力群、〈三区〉アフメトジャン・カスイミ、  
〈国民党〉張治中、陶峙岳、ブルハン・シャヒイディ

2-2：中ソ交渉と人民解放軍の進駐

－各種会談における毛沢東、周恩来の見解とスターリンの見解

－人民解放軍の軍事展開（第一野戦軍 第二軍、第六軍）

3：人民解放軍の改編と新疆生産建設兵団の設置

3-1：国民党・現地テュルク系ムスリム反共グループの抵抗

－馬呈祥、葉成、羅恕人、ヨルバルス・ハン、オスマン・バートル

3-2：人民解放軍の改編（～1950年）

－国民党蜂起部隊→西北軍区第二十二兵団、

三区民族軍→西北軍区新疆軍区第五軍

3-3：新疆生産建設兵団の設置（～1954年）

－西北軍区第二十二兵団→農第七師団、農第八師団、農第九師団、農第十師団、

西北軍区新疆軍区第五軍→農第三師団、農第四師団

－兵団の必要性：余剰兵力の吸収、開発、辺境防衛

4：おわりに

－新疆における中国共産党の国家建設の軍事的側面は三段階

－「東トルキスタン共和国」と「新疆生産建設兵団」の存在が成否の鍵